

令和5年度 「小中学校のつながりのある教育」
育成を目指す資質・能力の重点

1 「小中学校のつながりのある教育」の経緯

【平成29年度・平成30年度】小中学校のつながりのある教育検討委員会

◆「吉田町が育成を目指す子供像」の決定

吉田の精神を受け継ぎ、未来を切り拓いていくことのできる子供

◆「吉田町の教育を通して育成したい資質・能力」の決定

「内省する力」「行動力」「郷土愛」・・・学びに向かう力、人間性等

「探究課題に応じた知識・技能」・・・知識及び技能

「問題発見力」「コミュニケーション力」・・・思考力、判断力、表現力等

◆「小中学校のつながりのある教育を推進する軸」の設定

吉田町として目指す子供像や、それに伴う資質・能力の育成は、授業を核とした全ての教育活動を通して行われるものであるが、とりわけ小学校と中学校で探究的な学びとして一貫して取り組む、「総合的な学習の時間」の学びの質を系統的に高めていくことで達成されると考え、小中学校のつながりある教育の軸を「総合的な学習の時間」（吉田探究）とする。

【令和元年度・令和2年度】

◆吉田探究の研究的実践

中央小学校をモデル校に指定し、吉田探究の授業公開やモデルカリキュラムの作成を行う。また、吉田探究を支える思考スキル向上のため、全小中学校において、モジュールを活用した「探究基礎」を行う。

【令和3年度】

◆吉田探究の研究的実践

吉田中学校をモデル校に指定し、吉田探究の授業公開を行う。

◆「吉田町の教育を通して育成したい資質・能力」の重点化に向けた検討

次年度、吉田町が児童生徒に育成したい6つの資質・能力の内、小中学校が吉田探究を軸に、その他の授業や全ての教育活動を通し、重点を置いて育成に取り組むものを検討する。



コミュニケーション力

〔設定の理由〕

- ・コミュニケーション力は学びや生活の基盤となる資質・能力であること。
- ・異なる価値観や多様性を受容するとともに、他者との共存の中で、自分らしさを発揮しながら生きる力が、ますます求められる社会となっていること。

2 令和4年度、令和5年度の取組

【令和4年度・令和5年度】

令和4年度は、町内4小中学校が吉田探究を軸としつつ、授業を核とした全ての教育活動を通して、「コミュニケーション力」の育成に重点を置いて取り組んだ。コミュニケーション力を発揮している姿とは、単に「しっかり聞く」、「はっきり話す」という、形として見ることができる態度だけではなく、例えば次のような内面性も含めた姿にとらえた。

- ① 自分とは異なる他者を認識し、理解しようとしている。
- ② 他者認識を通して自己の存在を見つめ、深く思考している。
- ③ 他者と協調、協働しながら、正解のない課題に果敢に挑戦している。

子供はもともと有能な学び手であり、知りたいと思えば調べるし、分かりたいと思えば考える。聴きたいと思えば静かに耳を傾け、伝えたいと思えば表現し始める存在である。まさに、主体的に自他へのコミュニケーション力を発揮している姿がそこにある。

私たちは、こうした子供たちの本来の姿を引き出すための学びの伴走者として、知的好奇心を喚起する意図的な仕掛けや、学習環境づくりを行いながら、そこから見えてくる子供たちの具体的な姿の価値に気づき、認めていくことで、子供たちの「コミュニケーション力」をより高めていきたい。

こうした理念の下、令和5年度も引き続き子供たちの「コミュニケーション力の育成」を重点に、異なる価値観や多様性を受容するとともに、他者との共存の中で自分らしさを発揮しながら生きる力を育んでいきたい。